

## あいさつ

教会の中での性的虐待による危機は、大きなもので道徳的に不快な問題です。それは「聖職主義」と権力の濫用についての問題です。しかし、それは単なる「聖職者」ということよりも大きく、その影響を受けない場所はありません。



信徒はどのようにしてこの大きなテーマに取り組んでいくのでしょうか。どのような具体的な行動がとれるのでしょうか。犠牲者を支援するだけでなく、教会に関係する法律や政治分野に影響を与える解決策を生み出す手助けをするために、どのように適切に関わっていくのでしょうか。

スーザン・ヴォートは、影響力のある関わり合い方について、いくつかの考えを MLC に投げかけています。スーザンは「信者の声 (Voice of the Faithful:VOTF)」機関の非常に積極的なメンバーです。ケンタッキーとオハイオの州境にあるマリアニスト教区は、長年に亘って信徒がリーダーシップを取る育成を進めることに積極的です。皆さんの地域で、創造的に考える絶好の手始めとして、彼女のアイディアを使ってください。

今月の二つ目の記事はハイチを特集しています。ハイチの代表であるサウル・デメストアは、現地の MLC の活動について最新情報を送ってくれました。また先月フランスのマリア会で、二人のハイチの男性が終生誓願を宣立したことをお祝いします。これがこの小さな国の中で本当のお祝いをする理由です。

マルセタ



**聖職者の性的虐待と隠蔽の根本的な原因は何ですか？**

**信徒マリアニストは何ができますか？**

スーザン・ヴォート

## 問題の根本的な原因

- 性的虐待者にとって、それは権力の場にいる機会を利用した異常な性的特質です。
- その虐待を隠蔽した人たちにとって、教会の評判が虐待を受けた人たちの生活より重要であるという誤った考えを持っています。
- 私たちみんなにとって、それは**聖職主義**です。すなわち、司祭や誓願を立てた修道者は、単なる信徒より身分が高く神聖であるという考えです。そのような考え方が、権力の濫用につながります。



## 何をすべきなのでしょう？

マリアニストは、信徒でも修道者でも聖職主義に対応するにあたって、独特な立場を取っています。私たちの霊性は、**すべての弟子はキリストの前で平等である**ように招いています。信徒マリアニスト共同体は、信仰についての知識を深め、リーダーシップを発揮し、マリアニスト家族の中で平等のパートナーとして共同で働きます。

スーザンは、自分の教区にあるオハイオ州シンシナティの自分の教区の聖フランシス・デ・セール教会で、マリアニストの主任司祭が、説教で会衆にスキャンダルに因應するよう要求しました。彼は自分の声が危うくされるということを知っていました、そして、リードするには強い信徒の存在が必要であるということがわかっていました。

以下が起こったことです。

- 何人かの信徒が性的虐待と隠蔽に関して[傾聴セッション](#)を組織しました。
- 引き続いて行う [行動が提案され](#)、委員会が作られました。
- 教区評議会との協議が引き続き行われました。

インディアナ州のサウスバンドとオハイオ州のクリーブランドにある MLC もまた、何をすべきかを決めるために話し合っているところです。

グループを導く原則：

1. 防止策（[信者の声 VOTF](#) (Voice of the Faithful)に参加することを通して教育する、*National Catholic Reporter* や他のカトリック系ニュースサービスを読む、*Virtus training* に参加するなど）
2. 透明性（MLC の行動や教区の出来事の中で透明性を求める）
3. 祈り（犠牲者、聖職者、教会でリーダーシップを取っている人たち）
4. 苦境に耐える人と誠実な司祭への支援（両者の関係を気遣うことを発展させる）

5. 過度の聖職主義と戦うために構造的な変化を提唱する（すなわち、より多くの権限を信徒に与える）

あなたは何ができますか？ 祈ること、聞くこと、話すこと、行動すること。

さらに詳しい情報は、[Susan Vogt](#).にコンタクトしてください。

## ハイチの MLC からのニュースです

親愛なる国際チームの皆さん

ハイチはこの1年間にたくさんの活動をしてきました。2018年を締めくくるにあたり、同じ家族のメンバーとして兄弟のような友愛に満ちた絆を祝うために、祈りの会に続いてプレゼント交換を計画しました。

それから1月20日に、聖マルコ市にある聖マルコ教区でのミサで、創立者の記念日を祝いました。多くの熱心な信徒が集まりました。

最後に1月27日に、特に新しく奉獻したメンバーを祝ってレクリエーションの日を計画しました。



ジョゼ・ロベルジュはフランス系カナダの代表で、サウルの原稿の翻訳者ですが、彼はまた二人の若いハイチの男性が、1月30日にフランスのパリでマリア会の終生誓願を宣立したと記しました。彼らはジャン・エディ・ピエールとフランジー・ピエールです。写真はハイチで初めてマリア会の司祭となったフローリアン・ロイエ・シャボ神父と一緒にいる二人の若い青年を映しています。

サウルはこの祈りで彼の記事を終えます。：聖母マリアが引き続き私たちにご自分の愛をお示しになりますように。

ハイチの代表であるサウル・ダメストアとフランス系カナダの代表であり、またサウルの翻訳者であるジョゼ・ロベルジュによってこのニュースは投稿されました。



ジャン・エディ・ピエール



フランジー・ピエール

## 祈りましょう

サウル・ダメストアの祈り

私たちのすべての信徒のために祈ります。この新しい年がさらに愛と喜びと平和を呼び起こしますように。私たちの共同体の中で、そして共同体の間で、非常に良い協力関係を続けていくことを望みます。そして、天の御母が私たちを守り、母なる愛の中に私たちを住まわせ続けますように！ アーメン

